

岐阜県セラミックス研究所  
〒507-0811 多治見市星ヶ台3-11  
Tel. 0572-22-5381 / Fax. 0572-25-1163

### ■ 岐阜県現代陶芸美術館で「岐阜県陶磁器試験場の100年展」を開催しています。

岐阜県陶磁器試験場（現岐阜県セラミックス研究所）は明治44年（1911）に岐阜県産業課陶磁器試験分室として設置され、平成23年（2011）に創立100周年を迎えました。

当研究所では「人間国宝 加藤土師萌・加藤孝造 を輩出した試験研究機関のあゆみ」というキャッチフレーズのもと、下記のとおり岐阜県現代陶芸美術館で100年間に制作したセラミックス研究所が所蔵する2500点以上の作品のなかで約190点の作品を選び出し、関連資料を通じて紹介しています。この機会に人間国宝をはじめ当研究所が制作した歴史的な陶磁器作品に触れてもらい、岐阜県の陶磁器業界や美濃焼製品に関心を持って頂きたいと考えておりますので、県内外を問わずより多くの皆様には会場に足を運んでいただければ幸いです。

- 期 間 : 2011年12月10日(土) ~ 2012年3月25日(日) 休館日: 月曜日
- 開館時間 : 10:00~18:00 (入館は17:30まで)
- 場 所 : 岐阜県現代陶芸美術館 (Museum of Modern Ceramic Art, Gifu)  
〒507-0801 岐阜県多治見市東町4-2-5 (セラミックパークMINO内)  
TEL:0572-28-3100 FAX:0572-28-3101 URL:<http://www.cpm-gifu.jp/museum>
- 観覧料 : 一般320円(260円) 大学生210円(160円) 高校生以下 無料  
( )内は団体20名以上
- 関連企画 : 岐阜県陶磁器試験場の100年展開催記念鼎談  
伊藤慶二(陶芸家)×加藤孝造(陶芸家)×榎本徹(岐阜県現代陶芸美術館館長)  
日時: 2012年1月28日(土) 14:00~  
場所: 岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム

### 12月10日(土) オープニングセレモニーが開催されました!



☆地元の国会議員をはじめ、多数の来賓の方々をお招きして、岐阜県現代陶芸美術館にて、オープニングセレモニーを開催しました。

## ■ 岐阜県陶磁器試験場の 100 年展の内容について

岐阜県陶磁器試験場は、岐阜県の代表的な地場産業である陶磁器の歴史とともに歩んできました。会場での展示品は 100 年の歴史の足跡全体をたどることができるように、①井深捨吉場長による第二次世界大戦前および戦時下、②加藤幸兵衛場長の戦後（陶元町時代）、③星ヶ台時代、以上の 3 部構成で展示してあります。

### ■ 第 1 部 井深捨吉場長による第二次世界大戦前および戦時下

第 1 部は大正 13 年に井深捨吉が初代場長になってから、第二次世界大戦後の昭和 21 年の場長退職までの作品を展示しています。主な作品として、人間国宝加藤土師萌が制作した辰砂、透彫、鉄釉、乳白釉、染め付けなど幅広い作品を中心に紹介しています。その一方で、戦争が長期化するにつれて制作した、陶製のストーブ、羽釜、ボタンなどの代用品も並んでいます。



蝶文水指 1936 年  
(作：加藤一)

### ■ 第 2 部 加藤幸兵衛場長の戦後（陶元町時代）

第 2 部は昭和 25 年に加藤幸兵衛が場長になってから、昭和 45 年に多治見市星ヶ台の新庁舎に移転するまでの作品を展示しています。人間国宝加藤孝造はこの時期に陶磁器試験場に在籍していました。場長である加藤幸兵衛は美濃焼の燃料変革や省力化の推進、さらには美濃焼の高級化、技術者や陶芸作家の養成に力を入れてきました。主な作品として、加藤孝造の作品はもとより、高度成長期時代の背景を彩る様々な特徴ある作品を展示しています。



志野六角削花瓶 1965 年  
(作：加藤孝造)

### ■ 第 3 部 星ヶ台時代

第 3 部は昭和 45 年以降から現在までの星ヶ台時代に制作した作品を展示しています。星ヶ台時代は新素材や新技術を用いた作品が多いのが特徴です。未利用資源や廃食器を利用した陶磁器製品、釉薬や印刷技術を用いた加飾陶磁器製品、高強度や透光性などの機能を付加した陶磁器製品、新しい精焙器などを展示しています。



精焙器葡萄文飲食器揃 1997 年